

1 山梨県内公共図書館の概況 <令和 5 年度>

市町村立図書館の動きとしては次のようなものがある。7 月 15 日、富士川町立図書館が富士川地方合同庁舎 1 階、2 階に新設開館した。延床面積は 910 ㎡、富士川舟運の関連書籍や町ゆかりの人物の書籍など、地域に関連する資料約 2,700 冊を含む約 5 万冊を所蔵。情報発信のツールとして公式 Instagram も開設した。北杜市では 2022 年度より開催していた図書館適正配置等検討委員会で市内 8 館ある公共図書館を 3 館に集約、学校図書館と連携することなどを盛り込んだ提言書を 7 月にまとめた。しかし 3 月に 8 館を 3 館に集約して機能を強化し、残る 5 館を本の貸し借りもできる地域住民の交流拠点「コミュニティ・コモンズ」とする内容の条例案を議会に提出するも反対多数で否決された。市川三郷町では 12 月に行財政改革推進計画を公表し、市内 3 館ある公共図書館を 1 館に集約する方針を示した。

甲府市立図書館では 2022 年度に導入した電子書籍サービスを、市内小中学校の児童生徒が利用できるように ID を付与するサービスを開始した。上野原市立図書館では 4 月から専用の移動図書館車「リンデン号」を導入し、巡回ステーションも増設した。甲州市立図書館では 2 月のシステム更新に合わせ、ホームページのリニューアルを行った。3 月、昭和町で子ども読書活動推進計画を策定した。甲府市、笛吹市、甲州市、富士河口湖町の各図書館で、LED 化や空調設備改修による工事で休館期間を設けた。2004 年の開館以来、NPO 法人地域資料デジタル化研究会が指定管理者として運営をしていた山中湖情報創造館について、令和 6 年度よりシダックス大新東ヒューマンサービス株式会社が新たな指定管理者となることが 12 月に公表された。

県立図書館の動きとしては、やまなし読書活動促進事業の一環として、11 月には宮部みゆき氏を、2 月には中沢新一氏を迎え、金田一秀穂館長とのトークショーなどを行った。11 月のトークショーの前には「第 10 回贈りたい本大賞」として応募総数 3,875 点の中から大賞 3 点などを決定した。コロナ禍で各回個別開催していた館長講座を 4 年ぶりに連続講座として開講した。令和 6 年 2 月には放送法に基づく国内唯一の放送番組専門のアーカイブ施設である放送ライブラリーが保存・公開しているテレビ・ラジオ番組のうち、山梨県に関する過去の番組の一部を、館内のパソコン席で視聴できるサービス開始した。また児童資料コーナーに、障がいなどにより紙に書かれた文字を読むことが難しい子どもが読めるように工夫された、さまざまなタイプの本を集めた「りんごの棚」を設置した。3 月、山梨県では山梨県子ども読書活動推進実施計画（第 4 次）を策定した。また「やまなし障害児・障害者プラン 2024」の部門計画として「山梨県読書バリアフリー計画」を新たに策定した。

その他の動きとして、山梨県公共図書館協会と市川三郷町が主催する「第 36 回山梨県図書館大会」が開催され、画家、絵本作家、鳥の巣研究家である鈴木まもる氏による講演会と、集う場としての図書館に関連する 2 分科会が設けられた。館種を問わず 237 人の参加があった。

また関東地区公共図書館協議会、山梨県公共図書館協会、山梨県立図書館が共催し 6 月 28 日、29 日の 2 日間「関東地区公共図書館協議会研究発表大会」を山梨県立図書館において開催した。「地域の記憶—まもる、残す図書館」をテーマに東京大学名誉教授の根本彰氏による基調講演などを行い、オンラインも含め、延べ 317 人が参加した。

2023(令和 5)年度にかかる新型コロナウイルス感染症対応の動き

5 月 8 日に感染症法上の位置づけが 5 類感染症へ移行したことを受け、多くの公共図書館において、滞在時間や座席数の制限などを段階的に解除し、おはなし会などのイベントも定員や回数を増やして再開している。